プロジェクト検証シートの見方と検証のポイント

資料2-4

総合戦略プロジェクト検証シート（平成27～29年度実績を踏まえて）

総合戦略におけるプロジェクトの計画内容について、手段・意図や目的ごとに区分しながら、そのまま転記しています。

プロジェクト名	111　水産業連携強化促進プロジェクト

計画内容				
	手段・意図	水産業に係る生産、加工、流通の連携強化による稼ぐ力（域外から収益を得る力）の強化により、	水産業に係る生産、加工、流通の連携強化による稼ぐ力（域外から収益を得る力）の強化により、	
	目的	人材不足解消に向けた機械化による業務省力化の推進する。	・域内調達率の向上を促進する。 ・地域ブランド化の構築等を推進する。	

重要業績評価指標	単位	目標値（H31）	基準値 H26	実績値（計画期間） H27	H28	H29	H30	H31	達成率（対H29）
① 大船渡市魚市場水揚高　単	百万円	7,200	7,042	6,107	5,694	6,979			96.9
② 大船渡市魚市場水揚量　単	t	60,000	52,861	41,799	36,076	37,605			62.7
③ 食料品製造出荷額（水産加工品）　単	億円	128	113	138	156	（未把握）			―
④									

※③の数値は、当該年度で把握した数値であり、２年前の実績値である。

重要業績評価指標に関する数値等を記載しています。「実績値」は、単年度で捉えるものと累計で捉えるものの２種類あります。「達成率」は目標値（H31）に対する直近（H29）の実績値の達成割合を算出したものです。
これらにより、プロジェクトの計画内容がどの程度進捗しているか等がわかります。

関連する事務事業	
	① 地方創生推進事業
	② 物産販路拡大事業【再掲】　【0円】　の起業支援事業【再掲】　【13,518千円】
	③ 増強対策事業　【3,677千円】
	④ 確保支援事業　【5,393千円】
	⑤ 発信事業　【3,094千円】
	※【　】内の数値は、平成　業費(決算額）である。

「計画内容の具現化」や「指標達成」に向けた平成27年度からの取組の状況を記載しています。効果検証として**「これらの取組が妥当であるか等」を検証いただきます。**　※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。

「計画具現化」や「指標達成」に向けた取組状況等	
取組の実績（H27～）	・大船渡市水産振興会と連携して、廻来船等の誘致により水揚増強を図った。〔⑧〕 ・水産加工業の人手不足対策として、宿舎等の建設費用の一部を補助した。〔⑨〕 ・岩手大学と地元水産加工業者が連携して、作業工程の機械化について共同研究を行った。〔⑤、⑦〕 ※〔　〕内の数値は、関連する事務事業である。
H29年度の変化	**【新たな取組等】** ・平成29年８月１日付けで、大船渡産水産物の魅力発信等を行う地域おこし協力隊隊員１名を雇用 ・北里大学と市内事業者等が、サケマス類の生育やホタテ貝の歩留り率改善、アワビ幼生の生残率改善に関する共同研究を行った。 ※ホタテに関する共同研究は平成27年度からの継続研究 ・地域経済循環創造事業交付金を活用し、地域金融機関と共同して水産加工等の工場整備を支援するとともに、原料確保に係る取引拡充に向けた取組を検討した。 ・大船渡ふるさと交流センター「三陸SUN」と綾里漁協が連携し、首都圏での生鮮水産物の店頭及び企業向けでの予約販売を試験的に実施した。 **【既存取組の拡充・見直し等】** ・人材不足の解消を図るため、事業主に対する既存の雇用奨励金制度を縮小し、新たに新規学卒者等に対する就職奨励金制度を創設した。

平成29年度内において、「計画内容の具現化」や「指標達成」に向けた新たな取組や既存取組の拡充・見直し等について、それぞれに区分けして赤字で新たに記載しています。効果検証として**「これらの取組が妥当であるか等」を検証いただきます。**

平成27度からの取組に係る「成果」を赤字で新たに記載しています。

評価結果（内部評価）		
上記取組による「成果」（指標の状況分析含む）	・漁船誘致を継続することにより、大船渡市への水揚げに貢献している。 ・4事業者が宿舎整備を実施し、10名の新規雇用があった。 ・岩手大学との共同研究で取り組でいる作業工程の省力化については、導入に係る提案はできているものの、事業者によるブラッシュアップが進んでおらず、本格的な導入に至っていない状況である。 ・北里大学との共同研究については、基礎研究を含むため成果が前景化しづらい状況である。ただし、継続的な研究により、今後、本計画の目的である域内調達率の向上促進や地域ブランド化の構築等の推進に寄与するものと考えている。	
課題と今後の方向性等	＜　課　題　＞	＜今後の方向性＞
	・漁船誘致等での水揚増強対策による原魚の確保	⇒・漁船誘致の継続実施による原魚の確保
	・労働力の安定的な確保	⇒・県内陸部や首都圏等からの雇用や、外国人技能実習制度の有効活用等による人手不足対策の充実
	・市、大学、事業者の産学官の連携強化	⇒・岩手大学と連携した省力化等の取組強化 ・北里大学と連携した域内調達率向上や地域ブランド化等に係る取組強化
	・新たな地域ブランドの創出や新分野への進出 ・水産系未利用資源の活用に向けた製造業を中心とする業種間連携の促進	⇒・商品開発や販路開拓に向けた業種間連携の強化
進捗度	B　の進捗理由度　省力化やブランド化の促進に向け、業界全体の動きになるよう促す必要がある。	

取組の状況や成果等を踏まえた上での課題を整理しています。※赤字は加除修正した箇所です。

左の課題に対する改善策や方策等について、今後の方向性として整理しています。効果検証として**「今後の方向性が妥当であるか、他に取り組む項目はないか等」を検証いただくとともに、課題の解決や取組の改善に向けた提言等をお願いします。**

取組の状況や成果等を踏まえた結論としての進捗度を記載しています。効果検証として**「この進捗度が妥当であるか等」を検証いただきます。**
※説明書きがない場合は、進捗度は昨年度と同様です。

左の進捗度に至った理由について記載しています。効果検証として**「この理由が妥当であるか等」を検証いただきます。**
※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。